



パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年5月12日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15年度会長: 小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松4307号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



第579回例会 5月12日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 廣瀬隼人 ●点鐘: 小林昭次
- ゲスト: 甲山員司様 浜松東RC池浦捷行 浜松南RC小野真人様
浜松南RC原田肇様 米山記念奨学生 于春蘇さん
- 議事: 会報委員会「中東と世界」

<出席報告> 本日出席率68名 86.08% 前々回出席率89.87%

■会長挨拶

ウグイスの鳴き声について日本の研究家が科学誌に投稿した話です。ウグイスの鳴き声はより複雑に鳴くほど良しとされているそうです。優れた鳴き声のウグイスほど縄張り確保ができますし、メスの関心も高められるということです。

研究によりますと、ハワイのオアフ島へ日本のウグイスを持って行ったところ、80年の間に「ホーホケキョ」とは鳴かなくなったそうです。もっとシンプルで音も低くなった。なぜかという、エリアに定住して争いが少ない環境だからという事です。要するに、恵まれた環境にいと鳴き声も変わる、という研究を読み、随分面白いなと思いました。これは我々にも当てはまるかなと思います。この消費税の上がった厳しい環境を、ウグイスの鳴き声のようにクリアして、マーケットの関心を得られるように頑張っていきたいなと思います。

■幹事報告

本日の配布物はガバナ―月信とロータリーの友5月号です。

■委員会報告

募金活動委員会: 過日のネパール災害支援の募金は69,000集まりました。中日新聞を通してネパールの被災者の方



に寄付致します。

■米山奨学生

浜松大学大学院経営
学科研究科修士課程 2

年生の于春蘇(ウ・シュンソ)さんが本年度の米山奨学生です。西安のご出身で日本には6年、卓球とバドミントンが趣味です。



■スマイル

中野敬司、鈴木孝尚、村田誠、青山素久、小澤邦比呂:

本日より来年3月末日までロータリー米山奨学生として皆様にお世話になります于春蘇(ウ・シュンソ)さんです。とても明るく礼儀正しい素晴らしい女性です。

奥山恵理子:

5月2日、娘が男の子を出産いたしました。予定日より5日遅れてロイヤルベビー出生と同じ日に、同様のビッグベビーでした。昨年5月3日に結婚、そして今年の5月2日に出産と「家族が増えることの感動と未来への責任」を、日々感じているところです。娘の入院中に病院ではいくたびか「生命のたん生」に出会うことができました。この社会に「生」をうけた「命」がすこやかに育ち、社会に貢献できるよう「平和な社会」になるよう願うばかりです。



■卓話

「中東と世界」

社団法人太平洋諸島研究所 主任研究員 甲山 員司様

担当：広報委員会



2011年1月にチュニジアで起きた反政府デモは周辺のアラブ諸国に波及し、2月にはエジプトやリビアでも民主化を求めるデモが起こり、長期政権が相次いで崩壊するという“アラブの春”が発生した。

アラブ諸国に新しい民主化の波が浸透するかと期待されたが、この地域の国々は民主的な国家を運営する土壌がなお醸成されていなかったために、アラブの春の後に、シリア内戦、ロシアが関与するウクライナ内戦、イスラエルによるガザ地区への武力進入、そして、イラクとシリアにまたがる地域でのイスラム過激派による凶暴な「イスラム国」の樹立と言った、混乱した地域となって今日に至っている。

本日は、平和な日本では考えられないような混乱する中東とウクライナの現状とその混乱に影響される米・露・ヨーロッパ・アフリカの状況をお話したいと思います。

更に、日本も今年4月28日の日米首脳会談において、安倍首相がオバマ大統領と「不働の同盟国」関係を結んだことに抛り、近い将来、アメリカの要請により集団的自衛権行使という名目で、自衛隊が戦う事があるかもしれない形で、中東地域にも派遣しなければならぬ状況は発生する危険性をはらむ事になりました。

■アラブの春とシリア内戦

発端はチュニジアで起こったジャスミン革命でした。それに続き、エジプト、リビア、イエメンで独裁政権が崩壊、シリアでは政府軍と反体制派との長い内戦が続き、総人口 2240 万人中 400 万人が難民となり、トルコ、レバノン、ヨルダン、エジプト、イラクなどに流れていっています。またそれらの国を経由してイタリアに海上難民として向かった内 1800 人以上が海

上にて死亡するという惨事も発生しています。

■ウクライナ内戦

2014年3月1日ロシアはクリミアに軍事介入しこの地域を併合、それに倣いハリコフ、ドネツク両州が独立宣言をしました。それに対し、ウクライナ政府、アメリカをはじめ西欧諸国、日本等が反対の態度を表明し、ロシアに対する制裁措置を発令しています。

■イスラム過激派 ISIL による「イスラム国」樹立宣言

アルカイダから派生したバクダディを「カリフ」とするイスラム国家の樹立を宣言しました。イスラム国は民間人を含む捕虜の殺害映像を後悔する等残忍さを示しつつ、イラク、シリアに一定の占領地を持ち、世界中から若者の戦死を募り勢力の拡大を図っています。その結果、アルシャハール、アラビア半島のアルカイダ、イスラムマグレブ諸国のアルカイダ、ボコハラムなど多くの派生組織を産み、中近東の状況をより混沌としたものとしています。

■日米首脳会談と日本の将来

2015年4月28日安倍総理大臣とオバマ大統領は日米を「不働の同盟国」と位置づける首脳会談を行いました。会談では中国の海洋進出を強くけん制するほか、TPP 交渉の早期妥結への協力を表明しました。

日本が米国の「不働の同盟国」であらんとするためには日本の「集団的自衛権」の解釈を変更し、自衛隊の海外派兵の可能性を模索する必要があります。

TPP と中国主導で作られる AIIB では、中国がブレトンウッズ体制による国際金融の枠組みに挑戦し、①アジアに膨大なインフラ需要がある ②中国と新興国は



既存の国際金融機関で十分な発言権を与えられていない ③国内の成長が鈍化する中国がインフラビジネスや過剰生産物の輸出と資源確保のためアジア地域に活路を求めている などの背景を伺うことができます。

結論として、今後の世界は米中が主導権を争うという構図の中で、日本の政治・経済も対応していくようにならざるを得ないものと考えます。そこで、日本としての独自性を以下に発揮するかが問われているのです。